アジアの健康

写真：インド協働事業より　詳しくは特集にて！

特集

学び合い、分かち合うAHIパートナー　p 2～5
国際研修の研修生はどうやって決まるの？　p 6～7
新パンフレットデザイナー・山田光さんにインタビュー　p 8
『学ぶことは変わること』Doつかうknow?　p 9
事務局通信　p10～11
2024年度国際研修参加者　p12

AHI
アジア保健研修所会報

2024年夏号

特集 学び合い、分かち合うAHIパートナー

舞台はアジア　それぞれの今

国際研修を終えた研修生は延べ700人を超えます。彼らは希望に燃え、AHIで得た学びを自国で実践していきます。もちろん全てが思い通りに進むわけではありません。三歩進んで二歩下がる…そんな繰り返しかもしれません。
今回はそんな各国の研修修了生たちの歩み、特に協力し合って活動を進めている様子をご紹介します。

インド

プラヤス（Prayas）

ナレンドラさん（1993年研修生）

チャヤさん（2019年研修生）

（詳しくは4ページ）

農村開発協会（RDC）

スターリンさん（2019年研修生）

1）インドで広がる学びの輪

チャヤさんは、帰国後、参加型手法を取り入れて、地域での保健活動の担い手の育成に取り組んでいます。さらに、上司であるナレンドラさんの後押しを受け、健康を誰もが享有する権利としてとらえ、その実現を目指す事業を2023年にAHIと協働で始めました。同年10月には若いNGO職員を対象とした研修を実施。今年11月に第2回を実施する予定です。

タイ

全国保健委員会（NHCO）

ウグリッドさん（1987年研修生）

オーさん（2019年研修生）

（詳しくは4ページ）

2）タイからインドへ

ウグリッドさんからAHIへ、タイで開催する保健大会に参加しませんかという連絡があったのが2008年のこと。この大会では、行政と市民が協力して、さまざまな社会課題を議論し、提言をまとめます。その後、AHIは各国の研修修了生にも参加の機会を提供しました。
2022年頃、この取り組みがインドのタミルナドゥ州で導入されました。それに関わるスターリンさんと、タイの保健大会の事務局で働くオーさんは、ともに2019年の国際研修生でした。タミルナドゥ州の保健大会で少数民族の人たちの実情を訴えるため、タイの事例から学びたいと考えているスターリンさんと、オーさんとの定期的なオンライン勉強会をAHIはコーディネートしています。

フィリピン

プライマリヘルスケア研修所（IPHC）

ジョバスさん（2000年研修生）

（詳しくは5ページ）

3）フィリピンからパキスタンへ、そしてさらに…

IPHC代表のジョバスさん。自分たちの活動の質的な成果を評価する手法を探していました。2年前にAHIから誘いを受け、住民の声を基にして事業改善につなげるMSCという手法(*)の講習会に参加。さっそく実践に移しました。その経験からパキスタンやタイの元研修生にコツを伝え、サポートしました。

＊MSC手法：最も重要な変化手法（Most Significant Change）
質的な評価を行う参加型の手法で、事業の現場から「重要な変化」の物語を集め、人びとの意識や行動の変化を捉えるもの。1990年代にイギリスのリック・デイビス氏が考案。欧米のNGOなどで広く活用されている。

特集 学び合い、分かち合うAHIパートナー

クローズアップ！ガッツリ聞いてみました

（インド・Prayas）
チャヤさん

インド研修２回目に向けて

今年3月、去年のインド研修の参加者14名とオンラインで集まって、その後の活動状況を聞きました。それぞれ向かっていきたい方向は、はっきりしてきたようです。これからも引き続きバックアップしていきます。

参加者が抱える課題はそれぞれ違うけど、他の人の状況や取り組みを知ることによって、自分の状況を深く考えたり、解決に向けての「引き出し」をふやしていってほしいと思っています。次回の研修（今年11月実施予定）の参加者募集も開始しました。忙しいですが、楽しみです！

国際研修の1コマ　2019年10月10日

（インド・RDC）
スターリンさん

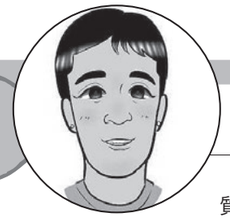
話したいことはたくさん！
AHIからの取材を待ってますヨ。

（タイ・NHCO）
オーさん

タイとインドの交流 嬉しいけど忍耐も必要?!

タイで15年以上行ってきた保健大会が、インドのタミルナドゥ州で2年前から実施されていて、そのうえ、国際研修で一緒だったスターリンさんがNGOのメンバーとして関わっていると、2023年11月にAHI職員のヤヨイさん（写真右端）から聞いてビックリ！

スターリンさんは、山間地の少数民族の人たちの声を行政に届けるために、ぜひ、タイの経験を知りたいと意気込んでいます。ワクワクしながら今年の3月と5月と6月、オンライン会合に臨みましたが、タイとインドでは歴史、土台、背景にかなり違いがあって…。大会の運営にあたっている同僚から情報を集め、事例研究をするなど、学び合うための道のりには忍耐も必要です。



（フィリピン・IPHC）
ジョバスさん

やってみようと思う人に私達の経験を伝えたい

自分たちの支援活動が住民にとってどんな意味をもつのか。どんな質的な変化があるのかを把握したい。何をどれだけ投入した、何人が参加したという数字の向こう側を見たいと、ずっと思っていました。そこにAHIから声がかかったのが、「最も重要な変化」をつかむ評価手法です。保健事業について、やってみることにしました。

通常業務に加え、一人１時間はかかるインタビューを30人近く行うなど、いくつものステップをこなしていくのはとても大変でした。でもその手応えは十分！ IPHCが思っていたよりも、そのインパクトが多方面にわたっていることが、住民の声から明らかになりました。今は他の事業でも実践しています。

関心はあってもなかなか実践に踏み切れない団体があるのは、ステップが何段階もあるのでちょっと二の足を踏むのかな。やってみようという人たちには積極的に協力したいと思っています。

住民の人たちから出てきた重要な変化。どんなものでしたか？

もともと事業のねらいは保健の向上。でも出てきた話はたいてい健康のことではなかったんです。水道組合の役員に選ばれた女性が話してくれたのは、「近所の人たちから信頼され、自信を持てた！」ことでした。

MSCの計画を話し合うIPHCのスタッフ　2022年４月

活動地域の村で

編集委員のつぶやき

水道から女性の自立？

内容を知るにつれハッとさせられました。「大事なことは目に見えない」ってまさにこういうことなのかしら。

AHIでの学びを自分の財産にし、それぞれのホームグラウンドで活かす研修生たち‥たとえその道のりはでこぼこ道でもto be continued！　まだまだ続きます。

イラスト：馬淵一輝

国際研修の参加者はどうやって決まるの？

～2024年度国際研修の企画から選考まで～

今年度も、住民主体の地域づくりを目指して国際研修が開催されます。創設以来、アジアの草の根ワーカーと共に切磋琢磨してきたAHIの参加型研修。その参加者が決まる過程を追ってみました。

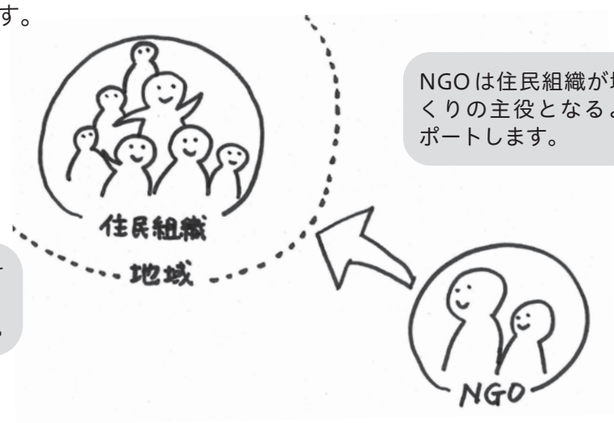
Q 今年度のテーマは？

「住民エンパワメント
～持続的でインクルーシブな地域づくりを目指して～」

地域の問題解決に取り組む住民組織に焦点を当て、誰もが排除されずに暮らし続けられる地域をつくるための方策を学びます。

Q 募集対象は？

アジア諸地域のNGOや、
住民組織のメンバーです。



NGOは住民組織が地域づくりの主役となるようサポートします。

住民組織とは、その地域に暮らし続ける住民による組織のこと。日本では、市民団体や町内会がこれに当たります。

Q 選考のポイントは？

①住民組織とともに活動を進め、その能力を高めていこうとしているか。
②住民組織がかかえている課題と、研修で学びたいことが結びついているか。
③送り出す団体が、応募者に研修後どうなってほしいか、明確な期待や計画を持っているか。

学んだことを帰国後に団体で生かすことをめざしているため、送り出す団体の代表にも応募書類の記入や面接を求めています。

AHIの研修では、参加者が持つ経験をもとに話し合います。そのため選考は、応募者がテーマに沿って経験を持ち寄り、学び合えるかどうかをポイントに行います。

研修運営チーム

12月～2月
企画立案
募集要項作成

2月～4月
募集告知・
応募受付

4月～5月選考
（書類選考→
オンライン面接）

理事会
承認

参加者
決定！

参加者と一緒に
オンラインで準備！

研修修了生を運営チームへ招請！

企画立案から選考、ファシリテートまで、研修の運営を担うチームの一員に昨年度研修生のサラムさんを招きました。修了後は企画立案する側へ。AHIの研修の目的は修了することではなく、それぞれの実践に基づいて、学び合いを続けることです。

障害分野のNGOで働いている経験から、インクルーシブの視点をもって研修生と関わっていきたいです。自分にとっても大きなチャンスです。

応募は13ヶ国27名！

研修修了生の団体の他に、日本国内の国際協力団体やJICAにも案内しました。応募の半分以上は研修修了生からの口コミですが、他にも様々な方法でAHIの研修を広めています。

7ヶ国10名の参加者が決まりました！

インドからの参加者はP2～５のチャヤさんが主催した研修の修了生です。
参加者紹介は裏表紙へ。

人から人へ広がっていく参加型！

企画から選考は、AHIと草の根ワーカーの出会いの場！

住民主体の地域づくりのために、国・地域・団体・立場をこえて、経験や機会を分かち合い、学び続ける場をつくることがAHIの仕事です。企画から選考はそのスタートです。

イラスト：髙田弥生

⋆新パンフレット完成！⋆

～デザインをお願いした山田光さん（賛助会員）に聞きました～

●パンフレット作成へ込めた思いとは？

まずは、AHIが大事にしていることや思いを、初めて接する人にも伝えることができるように心がけました。そしてAHIスタッフと何度も話し合いながら、専門用語は極力避けて日常的に使う言葉にすることを目指しました。

たった２面だけで表現できることは少ないけれど、だからこそ、スタッフが悩み抜いて選んだ言葉から、いろんな話題に話が膨らむといいなと思っています。そして、その意味を知りにAHIを訪ねてくれたら最高ですね。

パンフレットのここに注目！！

わかりやすい
ボランティア紹介

1分でわかる
AHIのルーツ

会話が膨らむ
AHIのキーワード

パンフレットの立役者
ステキな笑顔の
山田光さん！

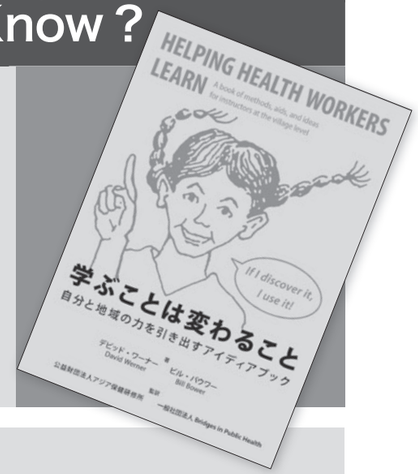
（宮古島在住）

●AHIとの接点と今後に期待することは？

小学生の頃から、母に連れられてAHIに行っていました。自主的に参加したのは高校生対象の「アジア講座」から。月に一度いろんな学校の高校生やその卒業生がAHIに集まり、国際研修のように、司会・記録係・タイムキーパーを決め、アジアや日本の問題など、毎回テーマを決めて討論しました。そのときに培った「人の話を聞く、相手の意見を引き出す」力は、大人になったいまも自分の強みになっています。そして、この時にできた友人は何十年経っても変わらず付き合いが続いています。多感な年代にいろんな角度から自分を含め、日本や世界を見られたことは心から良かったと思っています。そういった若い人たちを育てることが、次のAHIを作ることではないかなと思っています。

社会人になってしまうとつい日常に流されてしまいます。AHIの参加できるイベントには新しい出会いもあるし、懐かしい仲間に会えると嬉しいです。そしてオンラインが普通になった今だからこそ、現地の空気や研修生の熱い思いがリアルに伝わるスタディツアーは、AHIの強みになると思います。

『学ぶことは変わること』Do（どう）つかうKnow（の）？



AHIでは昨春、（一社）ブリッジズ・イン・パブリックヘルス〔BiPH〕との共同監訳で『学ぶことは変わること　自分と地域の力を引き出すアイディアブック』を出版しました。40年来続く世界的ロングセラー“Helping Health Workers Learn”の日本語訳です。20名近いボランティアの人たちとともに翻訳しました。住民自身が健康な地域へと変えていく大切さ、それを支える地域ワーカーの役割や持つべき視点・姿勢について、イラストや事例も満載に、たくさんの示唆を与えてくれます。

時を超え場所を超え、この本が私たちに教えてくれることは？賛助会員の秋田真千代さんが、ご自身の体験からご紹介します。

Helping “Health Workers” Learnなんですけど、うちのマンションの人たちに読んでほしい。　秋田真千代

現在、私は東京近郊の、72戸が入るマンションに住んでいる。その管理組合に対して、思うのはこんなこと。

私には意見を言う場がない。区分所有者（＝管理組合員。以下組合員）ではない私が意見を言うとしたら、組合員である夫に伝え、彼が会議で家族の意見として述べることとなる。

組合員は男性ばかり。役員も総会出席者もほとんど男性。どうしたって女性の意見は出ず、反映され難い。

私だって住人なのに。女性だって住人なのに。

私は組合員と同じくこの生活を快適にしたいと思っている。それなのに無き者とされている。まるで朝ドラ「虎に翼」の時代に「無能力者」と位置付けられたように。

積極的に関わりたい！と思い行事に参加すれば、総会の参加者は組合員の一割程。防災訓練だってそう。参加者は管理組合理事とその家族のみ。いつしか私も興味が失せ行事も欠席するようになった。

総会の委任状は提出しているだろうが、それでいいのか。災害が起きた時に私たちはちゃんと助け合えるのか。

言いたいことを言えない経験を重ねた私は、『Helping Health Workers Learn』を手に取った。

そこには、「地域の代表者を選ぶ」例が掲載されている。

「有力者には集会の間は黙っていてもらうのがよかろう…そうすれば普段は背後にいた人たちが前に立ち、話し合いの主導権を握ることが出来るだろう」
（10-4ページより）

10-4よりイラスト引用

これは「地域住民の意見を聞く」例にもなりうる。

そう！これよ、これ。

うちのマンションに必要なのは。

当事者なのに意見を言えない歯がゆさ、当事者なのに関心が薄い周囲へのもどかしさ。

10-4よりイラスト引用

うちのマンション管理組合のみなさん、組会費で購入して、入り口に置いてみませんか。

あなたにも、「そう！これよ、これ」と思えるような発見があるのではないでしょうか。

ちょい読みサロンにぜひ！

「買う前に試し読みしてみたい」「買ってみたけどひとりじゃなかなか読み進められないな」という方にうってつけのオンライン読書会（無料）。参加者が関心あるページやテーマで話す自由で気軽な会です。開催日についてはAHIまでお問い合わせください。

申込サイト

『学ぶことは変わること　自分と地域の力を引き出すアイディアブック』
原題：Helping Health Workers Learn
デビッド・ワーナー、ビル・バウワー著
AHI・BiPH監訳
3,980円（電子版2,980円）
Amazon もしくは BASE にて

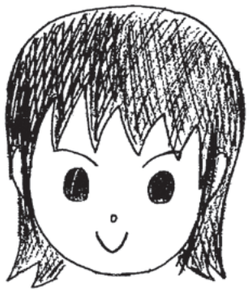
購入サイト

■本のご購入はこちらから！

事務局通信

AHIスタッフ紹介

皆さますでにお気づき(!?)と思いますが、ここ数年で職員の顔ぶれがだいぶ変わっています！「昔から知っていた職員さんが辞めてさみしいな」とおっしゃられる会員さんもいらっしゃいますが、大丈夫です。私たちがいます。
…というわけで、新しい順に自己紹介します。イラストは自画像です♪今回はこの3人。ぜひAHIにいらっしゃって、誰が誰だか当ててみてください。お待ちしてます～



MAKI CHITOSE
牧　千都世（2024年5月入職、広報・コミュニケーション部門）

一座右の銘
丸くとも一かどあれや人心　あまりまろきはころびやすきぞ

一AHIとの出会い
幼い頃からお世話になっている方に紹介していただきました。

一皆様へひとこと
この会報が発行される頃は、いよいよ研修生を迎える直前なのかと思うとふしぎな気持ちです。その頃に自分はどうなっているのか…きっと今と変わらずそそっかしく毎日を過ごしているのでしょうが、少しでも成長した自分になっているようにと願いを込めて、がんばります！

YAMASHITA SAORI
山下　紗織（2024年４月入職、ラーニング部門）

一座右の銘　みんなちがって、みんないい

一AHIのここが好き
毎日違うボランティアさんが出入りしてくださり、沢山の出会いがあるので毎日ドキドキ・わくわくで仕事させていただいています。

一皆様へひとこと
主に国際研修の事務手続きや運営業務を担当しています。学生時代から海外が好きで、バックパックで一人旅をしていました。AHIにいらっしゃった際には、ぜひ気軽に話しかけてください☆

KIMURA HIKARU
木村　ひかる（2023年6月入職、広報・コミュニケーション部門）

一座右の銘　命ある限り希望あり

一AHIと自分の出会い
前職で働いていた時に、上司に誘われて研修生の話を聞きに来たことがキッカケです。人から人へのご縁に感謝です。

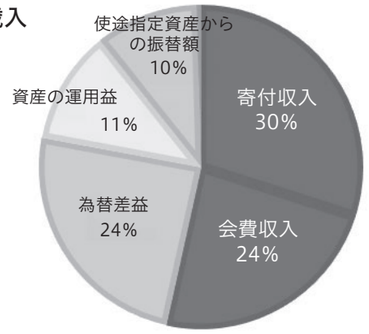
一皆様へひとこと
NGOの職員としてまだまだ勉強中ですが、サポーターのみなさんと一緒に、「健康な社会」を作っていく一人になれるよう、AHIに貢献していきたいと思います。よろしくお願いします♪

AHIのお金のはなし

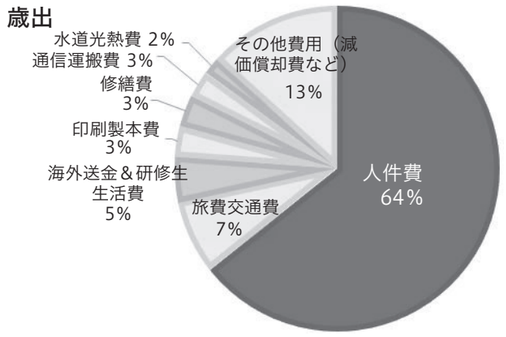
■歳入　主に次の３つで成り立っています。①皆さんからいただく寄付（クリスマス・お正月募金及び一般寄付）や会費（年会費及びひとつかみ会費）②資産の運用益　③「貯金」の取崩（使途指定資産からの振替）
　近年の円安ドル高の影響から、ドル預金保有に伴う為替差益が収入の４分の１近くを占めていますが、これは実質的には収入ではありません。

■歳出　最も多いのは人件費です。物を送るのではなく、人が行う人材育成や啓発活動を主要事業としていることの表われと言えます。他の主なものは、旅費交通費や海外送金・研修生生活費です。前者は研修生の航空運賃、職員出張費や通勤費、後者は海外での協働事業への送金や国際研修中の食費等です。しかし、ボランティアの皆さんの労力など、数字に現れないものの存在も小さくありません。

歳入



歳出



みなさんから会費や寄付をいただき、アジア各地で人びとととともに活動するワーカーの学び合いを続けています。

事務局活動報告（2024年1月～6月）

◇人材育成事業

【国際】**国際研修** ※P6-7、裏表紙をご覧ください。**AHIと研修修了生の協働事業〈インド協働事業〉**2023年度合同評価会3/13［ｵﾝﾗｲﾝ］、定期会合5/28［ｵﾝﾗｲﾝ］**アジアの草の根ワーカーのネットワークづくり** Learning Community News 第2号発行1月、勉強会「保健大会～多分野連携保健関連政策づくり～」［ｵﾝﾗｲﾝ］3/6 22名・5/10 10名・6/18 4名、MSC評価手法実践フォローアップ面談 DASCOH（バングラデシュ）［ｵﾝﾗｲﾝ］3/12、事業提案書書き方勉強会［ｵﾝﾗｲﾝ］6/26 8名

【国内】**『学ぶことは変わること』読書会**［ｵﾝﾗｲﾝ］3/8 10名・4/19 7名・6/21 8名※p9をご覧ください。**講師派遣** 近隣小学校への国際理解講座（日進市立東小学校）1/30、地域主体の国際協力・岐阜DDC5/30、椙山女学園大学1/12、日進市立日進中学校1/31、中京大学4～6月毎週1回、日本福祉大学国際学部6/27

◇アドボカシー・賛同署名　**ガザ関連** 2件　**ミャンマー関連** 5件

◇サポーターとの協働　**ボランティア** 計約90名（事務所・会報編集発送・国際理解講座・野菜雑貨販売）**会報編集委員会** 編集会議8回

◇サポーターへの情報発信・広報

会報 冬号発行2/1　**メルマガ** 毎月10日前後に発信６回　**ブログ・FB 不定期発信**　**イベント出展** クレイン英学校１階教室オープンイベント4/6、JICA中部15周年記念イベント6/1　**AHI紹介講座** 初めて始めて講座 計61名、出張講座 みよし市立南中学校国際福祉委員会24名

◇理事・評議員会　**理事会** 3/5・5/29・6/4・6/29　**評議員会** 3/21・6/20

2024年度国際研修参加者

テーマ：住民エンパワメント ～持続的でインクルーシブな地域づくりを目指して～

期間：2024年８月26日～９月29日

①名前（ニックネーム） ②団体名 ③活動内容 ④研修参加の動機

バングラデシュ

①モハメッド　アベイド　ウラー（アベイド）

②バングラデシュ社会の鼓動

③ミャンマーから逃れてきたロヒンギャの人たちの難民キャンプや周辺の村々で、生活習慣病の予防・改善のための健康教育などを行う、保健ボランティアを育成している。

④保健ボランティアの能力を高めたい。

①ヌルン　ナハール（ショマ）

②ダスコー財団

③ラジシャヒ県の保健センターのサービス向上のため、センターの運営や行政への提言を行う運営委員会の活動をサポートしている。

④運営委員会が継続して活動できるようになってほしい。

ブータン

①ヨンテン ジャムツォ（ヨンテン）

②ブータン障害者協会

③障害のあるすべての人の教育・雇用・健康などの権利が保障される社会を目指して啓発活動や政策提言をしている。

④障害者自身と、地域の人たちの障害への理解を深めたい。

カンボジア

①コンティア　チイエップ（コンティア）

②シェア＝国際保健協力市民の会

③プレアビヒア州で、自治体と住民が協力して子どもの栄養改善を進められる仕組み作りをしている。

④住民組織がもっと主体的に活動できるようになってほしい。

インド

①スワプニル　サダシブ　ヴァヴァハール（スワプニル）

②サティ（仲間の意）

③マーハラーシュトラ州の少数民族の村で、子どもの栄養状態を良くするため、行政職員と住民の連携強化に取り組んでいる。

④住民組織が継続して活動できるようになってほしい。

ネパール

①ヒマル　ゲイレ（ヒマル）

②メンタルヘルス・カウンセリング・センター

③カルナリ県で、心の病を持った人びとの自助グループづくりや障害者の支援に関する政策提言をしている。

④自助グループが継続して活動できるようになってほしい。

①クシャマタ　カドカ（クシャマタ）

②コピラ（つぼみの意）

③ガンダキ県の少数民族が多く暮らす地域で自助グループをつくり、心の病を持つ人びとや暴力を受けた女性のケアを進めている。

④自助グループがもっと行政に要望を伝えることができるようなってほしい。

スリランカ

①シェリル　ダヤンタ　フェルナンド　クルクラスーリヤ（ダヤンタ）

②ベレンディナ開発サービス

③全国14の農漁村で若者が主体的に地域づくりに参加するために、若者のグループをつくり、リーダーシップ研修を行っている。

④自分の団体のスタッフがもっと地域の住民の参加を促せるようになってほしい。

ベトナム

①ビン　タイ　グエン（ビン）

②地域開発支援センター

③中部高原の少数民族が暮らす地区で、住民が中心となったマラリアや結核対策を進め、保健サービスへのアクセスを良くしようと取り組んでいる。

④住民組織と行政がもっと協力し合える関係になってほしい。

①ハ　ティ　チュ（ピンキー　チュ）

②アクションエイド　ベトナム事務所

③気候変動に対応するため、持続可能な地域づくりに取り組む若者グループやリーダーの育成を全国的に行っている。

④若者が組織を運営する力を上げたい。

読者アンケート

2024年夏号はいかがでしたか？ここが面白かった、正直分かりづらかった... こんな記事が読みたいなど、皆さんの率直なご意見・ご感想をお聞かせください！こちらのQRコードからアンケートにご回答いただくか、FAX・メール・お手紙をお送りください。お電話や事務局で直接お伝えいただくこともちろん歓迎です！
お待ちしております。

編集後記

ただ本を読むことが好きなだけの私がおそれ多くもAHI会報編集に携わらせていただき、はや３号目。そもそもAHIの理念の「り」の字も理解しておらず、編集に際し自分の想いが先行したり、記事の内容を自分のものにできなかったり‥の悪戦苦闘ぶりは今号も変わらず。そしてまたあの眩しい研修生たちがやってきます。彼らのキラキラした眼差し、そのスピリッツ！まだもう少しAHIの空気を吸っていたい。そんなポンコツ委員です。みなさまのご意見をぜひ！　(I)

昨年の９月からメルマガをリニューアルして月１配信中☆ボランティアやイベント情報など、AHIの今の動きを載せています。ウェブサイトにあるメルマガ登録のバナーをクリックして、ぜひ、ご登録ください。

TEL：0561-73-1950　FAX：0561-73-1990　✉：info@ahi-japan.jp　website：https://www.ahi-japan.jp　Facebook：https://www.facebook.com/AHI.JP/

発行所：公益財団法人 アジア保健研修所（ＡＨＩ）〒470-0111愛知県日進市米野木町南山987-30　発行編集責任者：斎藤尚文
編集・執筆：会報編集委員会（井田みのり　岸田美穂　平田敏　（職員）関口明希　牧千都世）AHI事務局